

片平まつり 2023 災害科学国際研究所企画 を行いました (2023/10/7)

テーマ：片平まつり、東日本大震災、災害対応、新型コロナウイルス感染症、予防、復旧復興、教育
会場：東北大学災害科学国際研究所（仙台市青葉区）

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/event/event_jn/detail---id-6287.html

URL：<https://www.katahira-f.tohoku.ac.jp/>

2023年10月7日（土）9時～17時、東北大学災害科学国際研究所多目的ホールなどにおいて、片平まつり 2023 災害研企画（5 企画）を対面（完全予約抽選制）で開催しました。

片平まつりは、東北大学の研究所やセンターなどが、2年に一度開催する秋の科学イベントで、小中学生を主な対象として片平キャンパスをメインに、星陵キャンパス（加齢医学研究所）、青葉山キャンパス（学際科学フロンティア研究所）、青葉山新キャンパス（災害科学国際研究所）にて実施されるものです。前回の片平まつり 2021 はコロナ禍のためオンライン開催、前々回の片平まつり 2019 は台風のため中止となり、今回は事前予約制ではありますが、片平まつり 2017 以来の対面開催ができることになりました。

今回の片平まつり 2023 は「集まれ！未来の科学者たち！」をキャッチフレーズとして開催されました。当研究所では、『答えてみよう！聞いてみよう！実験やクイズで学ぶ災害の科学』というテーマで、以下の通り4部門（災害評価・低減研究部門、災害人文社会研究部門、災害医学研究部門、防災実践推進部門）から計5つの企画が実施されました。当選された方は保護者を含め計185名で、当日は、新型コロナウイルスの感染予防に十分配慮しつつ、以下の各企画を順調に開催し、それぞれの企画を通して災害研を紹介することができました。

■『免震建物模型実験』（災害評価・低減研究部門 地震工学研究分野 五十子幸樹教授）

時間：10：00～、13：00～（30分/回） 参加者数計24名

■『僕たちの災害時避難所空間をつくって、避難所生活を体験してみよう！』（災害人文社会研究部門 国際防災戦略研究分野 村尾修教授）

時間：10：30～、13：30～（1時間30分/回） 参加者数計25名

■『ぼうさい宝探しゲーム in 災害研 ～さいがい犬イリからの密命～』（防災実践推進部門 防災教育実践学分野 佐藤健教授）

時間：10：30～、13：30～（1時間30分/回） 参加者数計11名

■『鉄道模型運転で学ぶ「カケアガレ」防災演習』（防災実践推進部門 防災社会推進分野 吉田浩教授）

時間：10:00～、11:00～、13:30～、14:30～、15:30～（10分/回×5組） 参加者数計44名

■『放射線を知（し）る！診（み）る！』（災害医学研究部門 災害放射線医学分野 千田浩一教授）

時間：11：00～、14：00～（30分/回） 参加者数計21名

新型コロナウイルスの流行がまだ十分に落ち着きを見せたとは言えないため、事前予約抽選制・対面方式での制限された開催となりましたが、参加して頂いた小中学生の生き生きとした輝いた眼差しや熱気が伝わってきて、やはり対面開催の重要性必要性を改めて実感いたしました。なお、時間のある保護者の方々に、2階展示スペース「仙台に残されていた関東大震災の記録」の展示も見て頂きました。

本企画の準備・運営は、片平まつり 2023 災害研実行委員会（千田浩一・村尾修・大野晋・佐藤大介・原裕太・濱家由美子）、広報室（鈴木通江）と総務係（高橋由樹）が担当しました。また前日準備や当日運営に、学生など多数の皆様にご協力して頂きました。



受付
 (各種パンフレット、災害研グッズを配布)



災害時避難所空間
 (詳細は別途レポートを掲載 ※)



免震建物模型実験
 (耐震構造と免震構造の違い等を直感的に理解)



鉄道模型運転で学ぶ「かか」防災演習
 (一番人気のコーナー、楽しみながら演習)



ぼうさい宝探しゲーム in 災害研～さいがい犬イリからの密命～
 (宝箱の中の指令を読み解きながら、災害研の建物全体を使ってゲーム感覚で広く防災の知識を学習)



放射線を知(しる)！診(みる)！
 (放射線風評被害防止のため、クイズや測定体験や各種実演そして放射線の医学利用などを通して正しい放射線の知識を理解)



※ 「片平まつりで避難所体験イベントを行いました」(別途掲載)をご覧ください。